

令和4年度長崎南山中学校・高等学校自己評価表

学校教育基本方針	カトリック精神の下に健全なる青少年を育成する
学校教育目標	人間の尊厳のために
校訓	高い人格 広い教養 強い責任感
年度努力目標	紳士としての振る舞いを心掛けよう 一人に優しく 自分に厳しく ー

評価項目	具 体 項 目	目 標	具 体 的 方 策	評 価	総 括	成 果 と 課 題	
				(年度末)			
1 学校経営 全職員が共通の理念に立った学校経営の参画における教育的成果の評価							
[1]	学校教育目標	学校教育目標の具現化	学校の実態に即した目標が設定され、教職員間の共通理解のもとに、教育目標の具現化を図る。	教育目標、校訓に則った適切な目標を設定する。	3.1	3.0	全職員が同じ方向を向いているという感覚は足りない。それぞれがそれぞれのしたいことをして、体系的かつ系統的に業務が遂行できている感じは薄い。地域との連携が希薄であると感じる。平和町商店街とのコラボレーションだけではなく、地域の方々との交流も増やしていくことができるといいと感じている。南山の鐘を発行して教育活動の理念を伝えることは重要だと思う。第1号が文章ばかりで見ている方もきついで、写真や図・グラフなどを用いて南山について発信してほしい。また、南山に来てほしい生徒像についてもアピールしていいのではないか。
				高い人格について			
				授業・講演・体験学習などで進路を考える一助を与えている。	3		
				探究型の授業や大学との連携などでモチベーションを上げる。	3.1		
				広い教養について			
				国際交流やワークショップ、海外機関やグローバル関係の大学・学部などとの関わりなどの機会を通じて、生徒たちの視野を広げようとしている。	3.4		
				読書科や論理コミュニケーションで発信力を養うようにしている。	3		
				強い責任感について			
				学校行事を通して、クラス・学校の一員としての自覚・責任を持った活動をさせる。	2.9		
		週番活動・校内外でのボランティア活動で地域に貢献させる。	2.7				
[2]	学校経営方針	経営方針の明確化とその実践	経営方針が学校内外に明確に示され、教職員間の相互理解と保護者・地域の支持に基づく教育活動を行う。	職員研修などを通して、学習指導・部活動・生徒指導の三本柱の学校経営ビジョンを全職員が共有し、教育実践に努める。	2.8	2.9	Classiやホームページにおけるブログの更新で、内外に学校の様子を伝えることができた。
				ホームページ・classi・学年通信・学級通信などを通して、教育方針や育てたい生徒像を生徒・保護者・地域社会等に対して明確に示す。	2.9		
[3]	学年経営	学年目標の具現化	学校目標に沿った学年目標による経営を行う。	学年目標の教員・生徒への浸透を図り、目標達成のための教育活動を展開する。	3.1	3.2	時間割的に厳しいのは分かるが、学年会に担任のみが出席している現状はおかしい。その時点で担任と副担任が明確に分離されている。副担任は担任と同様の業務ができる状態でなければならぬ。
				学年会議を月1回以上開き、目標の達成状況、指導上の課題等について職員間の共通理解を図り、統一的な指導を行う。	3.2		
[4]	学級経営	学級目標の具現化	学校目標及び学年目標に沿った温かい学級づくりを行う。	学校目標や学年目標に沿って、学級の実態に応じた学級目標を設定し、学級経営を行う。	2.9	3.0	各クラスで最低限実施すべき項目について精査し、それを周知徹底することが必要ではないか。また、それを監督する側の努力も必要だと考える。
				個別面談を学期に1回以上実施し、クラスの生徒の多面的理解を深める。	3.2		
				生徒が主体的・意欲的に活動する学級経営に努める。	2.9		

評価項目	具 体 項 目	目 標	具 体 的 方 策	評価	総 括	成 果 と 課 題	
				(年度末)			
2 教育活動 教育活動全般における計画的、組織的な教育的成果の評価							
[1]	教育課程の 編成	創意工夫を生かした適切な教育課程の実施	学習指導要領の主旨が生かされた特色ある教育課程を編成する。	クラスの特性や個々の生徒の進路に適した教育課程を編成する。	3.2	3.1	会議や研修が議論ではなく報告会になっているので、職員の見解を吸い上げる場は確保すべきだと感じる。
				会議や研修会を通して、教育課程の実効性や教育目標の達成状況を定期的に検証する。	3		
[2]	教科指導	わかる授業の展開と工夫・改善	創意工夫がなされた学習指導を行う。	各教科科目の年間指導計画を作成し、学習目的や学習方法を事前に生徒に説明する。	2.6	2.9	一方方向で教える授業ではなく本人が自ら学ぶようになる工夫が必要とされていると思う。生徒の学び度合を確認して評価する方法が難しく、また、十分に検討する時間も作れていない
				基礎学力・基礎技術の習得の徹底を図る。	2.7		
				生徒の自主的な学習意欲を喚起するため、導入・展開に工夫した授業を行う。	3		
				わかりやすい授業づくり・授業改善を推進するため、授業研究などを定期的に実施する。	3.3		
	適切な学習評価	教職員の共通理解のもとに適切な評価を行う。	評価基準に基づき、共通理解のもとで評価を行う。	2.8	2.8	観点別評価について教科間で取り組み方や認識のバラつきがあり、適正な評価ができていたのかどうか曖昧になっている	
			評価をその後の授業にフィードバックし、指導と評価の一体化を図る。	2.7			
[3]	総合的な学習(探究)の時間	ねらいが明確で創意工夫を生かした活動	学習指導要領のねらいをふまえて、地域や学校の特色を生かした活動を行う。	生徒に身につけさせたい力を明確にし、年間計画に基づいて各学年のねらいに沿った学習活動を展開する。	2.9	2.8	取り組む活動が多すぎる気がする。年間の計画が学年に共有されていない。
				各学年ごとの主題を設定し、発表会を実施する。	2.6		
[4]	特別活動	ホームルーム活動の充実	学校・学年の教育目標に沿った年間計画により、活発な活動を行う。	年間計画に基づいて、事前準備をよく行い、活発なホームルーム活動を実践する。	2.7	3.0	LHRの年間計画を策定すべき。学年によって色を出してもいいが、学校として体系的に進路指導と絡めたLHR計画が無い状態を何とかすべき。
		生徒会活動の充実	生徒の自発的・自主的な活動を推進する。	生徒会活動の充実を図り、生徒の自発性・自主性を促し、積極的に生徒会活動に参加させる。	3.2		
		学校行事の充実	生徒の実態に即した効果的な行事を行い活動内容を工夫する。	効果的な学校行事となるよう、常に見直しを行い、活動内容を工夫する。	3.1		
[5]	生徒指導	基本的な生活習慣の確立	生徒理解に基づき、全教職員であいさつ・マナー・礼儀等のきめ細かな生徒指導を行う。	8時05分以降の登校者をゼロとし、出席率の向上を目指す。	3	3.0	挨拶・マナー・礼儀に関してやや意識低下している傾向にあると思うので、教科や分掌としても生徒達への意識向上を図ると同時に、教員の資質も向上するよう努めなければいけないと考えます。
				挨拶や礼儀、容儀等の指導を徹底し、節度ある規則正しい生活を身につけさせる。	2.8		
				悩みを抱える生徒やいじめの早期発見に努め、適切な教育相談を行う。	3.2		

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価	総括	成果と課題	
				(年度末)			
[6]	進路指導	進路指導の充実	系統的・計画的な進路指導を行う。	難関国公立大、地元国公立大、南山大をはじめとする難関私立大学への多数合格を目指し、その目標達成のための教育活動を展開する。	2.9	3.0	学習意欲や学力の低い生徒の学力向上が課題です。入学しやすく進路実現して卒業できるのが南山と長崎全般に認識させたいと思います。
				進路選択に役立つ情報を系統的に提供する。	3		
				進路実現に向け、模擬試験や検定試験、講演会、三者面談等を計画的に行う。	3.3		
				職業観・勤労意識を醸成するためにキャリア教育を推進する。	2.9		
[7]	読書教育	読書活動の充実	読書活動を通して、豊かな人格と落ち着いた生活態度を養う。	教科を通して出来るだけ読書の機会を提供している。	2.7	2.9	図書館の貸し出し数の減少が止まらない。デジタル図書に期待しています。
				図書だよりの発行に努めるとともに、図書委員を活用して図書館の利用や本の貸し出しの拡大を図る。	3.1		
[8]	健康安全教育	健康や安全に対する態度の育成	健康・安全な生活を送るための指導を行う。	生徒の心身の健康について、学級担任・養護教諭・分掌等の連携を密にした指導を行う。	3.2	2.9	新型コロナウイルスの対応で、衛生管理や保健に関する連携は今までに無いくらい意識が高まった。しかし、コロナ対応に時間をかけた分だけ、交通安全と食育まで指導する意識や機会はどうしても減っていた。
				安全確保について生徒や保護者への啓発を促し、組織的に対応できる危機管理体制を整える。	3.1		
				全校集会、ホームルーム指導を通して、交通安全教育や安全衛生教育を徹底する。	2.8		
				心身の健康づくりを推進するため「食育」の実践を図る。	2.4		
[9]	人権・同和教育	人権尊重に対する普遍的価値観の醸成	人権尊重に関するさまざまな課題を認識させ、解決のための実践力を身につかせる	日常の教育活動の過程において、人権尊重の精神を培うことにより、互いに助け合い協力しながら課題を解決しようとする態度を育成する。	3.0	3.0	朝のころをもっとしっかり聞かせたい。心に留めていない生徒が多い現状を何とかしたい。
[10]	部活動	部活動の活性化	部活動への参加を奨励し、活発な活動を促す。	部活動への積極的な参加を奨励し、学校生活の満足度を高めるとともに、学習との両立ができるよう支援を行う。	2.8	2.8	クラブ顧問の先生方は個々でよく取り組んでおられるが、学校全体として取り組んでいるようには感じない。
				部活動を通して、達成感や挫折感等を共有する過程で、忍耐力及び協調の精神、コミュニケーション力等のたくましい人間力を育む。	2.8		
[11]	ボランティア活動	ボランティア活動の充実	ボランティア意識の高揚を図る。	ボランティア情報を提供し、主体的な参加を奨励する。	2.8	2.8	もっと積極的に各学期に数回のお知らせと勧誘があってもいいのではないかと。
				施設等への訪問活動や環境美化などの身近で取り組みやすい活動の機会を設定し、奉仕の心を育成する。	2.7		
[12]	資格取得	各種資格取得の奨励	個に応じた指導の一環として、各種資格取得を奨励する。	英語検定、漢字検定等に果敢に挑戦することを奨励し、学習意欲の喚起につなげる。	3.3	3.3	受験代の家庭的負担が大きい。

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価	総括	成果と課題	
				(年度末)			
3 組織運営 教育活動の円滑化、教師集団の協働性に関わる教育的成果の評価							
[1]	校務分掌	適切な役割分担 組織的な活動と運営	各自の役割分担が明確 であり、分担に応じて適 切に校務を処理する。	年度の実態に応じ、各分掌の課題確認と分掌業務の改善に努め る。	2.7	3.0	学年間の引継ぎが不十分であ ると感じる。学年の色を出すこ とは大事だが、それが強すぎ て系統的な実施ができていな いのではないか。
				校務全体の円滑な推進のため、各分掌間・学年間の相互連携を図 る。	3.1		
				分掌ごとの業務記録、資料保存に努める。	3.1		
[2]	各種委員会	目的に応じた適切 な委員会の設置と その運用	目的に沿って適切に委 員会を設置し、運営す る。	各委員会の設置目的を確認し、その実現に向けて効果的な話し合 いを行う。	2.8	2.8	頭髪検査の規制緩和など今後さ らに発展していくためのきっかけ は得られた。
				各種委員会での話し合いの結果を教職員の各業務に反映させ、教 育活動や学校経営等に生かす。	2.7		
[3]	校内研修	研修体制の 確立と実践	計画的・組織的に授業 研究等を行う。	生徒の実態や自校の課題を踏まえ、全教職員による校内研修を年 2回以上行う。	3.5	3.3	研修の時間は十分に設けられ ているものの、一部の教員に ついては研修で学んだことを 実践するための時間がない状 況に陥っている
				指導実践力の向上を図るため、研究授業及びその検討会(授業研 究)等の機会を各教科とも年1回以上行う。	3.4		
				外部の研修受講者が、必要に応じてその内容を他の教職員に伝達 する機会を設ける。	3.1		
[4]	現職教育	教職員の資質向上 への取り組み	教育センター等の研修 に積極的に参加する。	教育センター・私学協会等で開催される研修会に計画的・積極的に 参加し、教職員の資質の向上を図る。	2.8	2.8	教師として研鑽を積まなけれ ばいけないことは自覚している が余裕がない。

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価	総括	成果と課題	
				(年度末)			
4 教育環境 学校の置かれている条件や環境に関わる教育的成果の評価							
[1]	学校環境の整備	潤いのある生活環境の整備	日々の清掃を充実させ、美化意識を高める。	日常の清掃活動に全校生徒、全教職員で積極的に取り組む。	3.3	3.1	各教室の整備状況が悪い。割れ窓理論と言われるように、掲示物や机の配列などが乱れると、それらが人間関係の問題を生じさせる要因になっていくとされている。
				特別な清掃活動(大掃除・地域清掃活動等)を年3回以上実施する。	3.5		
				日常生活の中で環境美化の意識を高める指導に取り組む。	2.8		
				省エネ運動を推進し、水道・電気・紙等の使用量削減に努める。	2.7		
[2]	施設・設備の管理	活用と安全管理	施設・設備の有効な活用が図られ安全点検等の管理を適切に行う。	施設・設備の有効な活用が図られ安全点検等の管理を適切に行う。	2.8	3.0	エアコンの設定温度や利用の規則は、節電の面と生徒の健康、充実した教育環境など多面的に判断されるべきである。
				日常の教育活動や指導は、常に安全を優先して行う。	3.1		
[3]	情報インフラの設備・充実	教育活動全般の情報化	コンピュータ等を使った校務処理を適切に行う。	コンピュータによる校務処理を推進し、データの共有化を図り、効率的な事務作業を行う。	3.2	3.2	タブレットによる情報共有化は成果を上げていると思われる。課題はタブレットを常時確認する全員の意識を向上させることにある。
				コンピュータ上の生徒情報等の管理の徹底を図る。	3.3		
				諸帳票類の管理保管体制を整え、適切に運用する。	3		

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価	総括	成果と課題	
				(年度末)			
5 開かれた学校づくり							
[1]	保護者との連携	協力体制の確立	生徒に関する情報を相互に交換する。	保護者との個別面談を年2回以上行い、生徒の状況について学校と保護者が緊密に連絡や情報交換を行う。	3.4	3.4	育友会総会というよりは各学年ごとに保護者会などを実施することで保護者との共通理解ができていと感じる。
			育友会活動の充実	支援と活性化を積極的に図る。	育友会総会等を活用し、生徒の状況について説明を行う機会を設定する。		
	育友会活動の充実	支援と活性化を積極的に図る。	自主的な育友会活動が活発に展開され、学校もその活動を積極的に支援する。	3	2.9	育友会からの広報誌、メールやClassiで配信して情報の共有化を充実してもらいたい。	
			育友会関係の会議への参加率向上に努める。	2.7			
[2]	地域や関係機関との連携	学校間連携の充実	他校や異校種との必要に応じた効果的な連携を行う。	各教科や部活動等において、関連校との効果的な情報交換や連携に努める。	2.8	3.0	進路相談会が充実し、県内のどの学校よりも大学や企業との繋がりが強くなっている。複数の進学就職先の説明会を本校でできるので、生徒は進路を身近に感じ、ビジョンを持ちやすく、選択肢も多く考える事ができる。
			関係の深い小・中学校や大学等との情報交換や連携に努める。	3			
			地域等からの苦情等に対し、適切に対応できる体制を整備するとともに、改善を速やかに行う。	3.1			
		外部講師の活用	教育目標に沿って、外部講師招へいによる教育活動を行う。	年間計画に基づき、平和学習・進路講話・交通講話等に外部講師を積極的に活用し、教育的効果を高める。	2.8	2.8	
[3]	ホームページの更新	ホームページを見やすくし、定期的更新を行う。	ホームページの更新を定期的に行い、学校情報の積極的発信に努める。	3.1	3.1	ホームページの刷新やブログの解説によって様々な学校の情報が公開され、ホームページの更新頻度が確実に上昇した。	
			学校情報の内容(諸活動)が、ホームページ更新に反映されるよう担当者との連携を図る。	3.1			
	学校情報の公開	学校情報の広報	学校方針や具体的教育活動についての情報を保護者等へ積極的に提供する。	学校方針や具体的な教育活動の内容について、適切な情報を地域や関係機関に提供するため、学校だよりを年2回以上発行する。	2.9	3.1	広報活動は大変重要になってくると考えられるが、人員や予算において足りていないように感じている。広報に関わる先生が大変一生懸命にやられている。
				ポスター配布や説明会の開催など適切な広報活動を行い、小・中学生の進路選択に関する資料を提供する。	3.2		
				学校の特色を感得・理解する機会としての体験入学(オープンスクール)を積極的に開催し、入学希望者の増加に努める。	3.3		